



何故、健診・検診を受けないの??

山口大学・山口県立大学名誉教授 江里 健輔 先生

「血液検査や胸部写真には異常なく、便潜血反応も陰性です。立派な所見です。日常生活が規則正しいのですね」と伝えたところ、忘れかけていた昨年話を聞くことになりました。

「先生、昨年の健診で、便潜血反応を受けていませんでした。先生から『この検査は大腸ガン早期発見に有用で、女性の癌死亡のうち、最も多い疾患です。是非受けるように』とアドバイス頂きましたので、急遽受けました。

結果は2回とも陽性でした。先生から『大腸内視鏡検査を受けて頂くようになります。頻繁に受ける検査ではありませんが、二度とも陽性であれば仕方ないですね。』と言われ、恐る恐る大腸内視鏡検査を受けたところ、親指大のポリープが3個見つかり、摘出して貰いました。おかげで今年の便潜血反応は陰性です。先生のアドバイスを聞き入れて、寿命が伸びました。先生のお陰です。ありがとうございました。感謝してもしきれませんね。」と満願の笑顔で話されました。



このように健診・検診を受けると、全く症状もない未病の時に病気が発見されます。

働いておられる方の生活習慣病予防健診と、その配偶者(被扶養者)という視点でみると、その受診率は令和4年度で生活習慣病予防健診は56.4%、被扶養者の特定健診は27.7%という状況です。

また、冒頭のケースのように被扶養者の特定健診にはがん検診が含まれていないので、市町がん検診との同時受診を是非お勧めします。

特定健診の受診率が低いと

- ① 寿命が短くなる可能性が高い
- ② 進行して発見されるため、苦痛を伴う
- ③ 長引く治療・介護でQOL(生活の質)が低下する
- ④ 個人的にも、社会的にも経済的負担が増える などなどです。

冒頭に大腸ガン検診の事例を紹介しましたが、未病の時に疾患が発見できれば、治療期間も短く、治療も軽くて済みます。

例えば、早期胃ガンで、胃粘膜下層剥離術であれば、約18万円で、入院期間も短く、術後の抗ガン剤治療もありませんので、体への負担も軽く、費用も少ないです。しかし、進行した胃ガンであれば、腹腔鏡下胃部分切除(腹部に5~12mm程度の小切開(穴)をし、この切開部から内視鏡や手術のための鉗子やハサミを挿入し、手術視野をモニターし、術者はモニターを見ながら手術をする)の適応となり、約64万円で、入院日も長くなり、その上、術後抗がん剤治療などが必要となれば、益々高額になります。

日本の医療制度は世界でも類を見ない素晴らしい制度で、保険証を提示すれば、どこでも受診でき、患者負担も1割から3割で済みます。しかし、高齢化で医療費は年々増え、2022年度の国民医療費は約46兆円で、医療保険制度を維持することが難しくなっています。

国民医療費の高騰を抑える最も効果的なことは国民が健診・検診を受診し、早期発見することです。

例えば、健診・検診も受けず、好きなだけ食べ、飲み、喫煙し、運動もせず、不規則な生活をしていると、糖尿病で腎障害に陥り、人工透析のお世話になってしまいます。その年間約500万円の人工透析の費用を数十年にわたり、負担させられるのは、きちんとした日常生活をして、毎年健診・検診を受け、健康に留意している人達です。

健診・検診を受けることは個人のためである以外に国の経済を守ることになります。絶対に受診すべきです。貴方のため、国のため。



全国健康保険協会 山口支部

協会けんぽ

協会けんぽ 山口支部

検索

〒754-8522

山口市小郡下郷312番地2 山本ビル第3

TEL: 083-974-0530 (代表)

受付: 平日8:30 ~ 17:15